

岡山県津山市橋高下
津山高校 図書館
TEL 22-2204
印刷部 町 3 5
朝日市 津山 津山
TEL 22-3135
印刷部

民話紹介

今回のライブラリーでは、岡山県の民話を紹介します。図書部であらすじをまとめたので、ぜひ読んでみてください。

雉鳥

鳥取県の東部に「愚か村」と呼ばれる佐治谷があった。その猟師が俵の中に鳥をたくさん入れ、蓋の外に雉(きじ)をつりさげて津山の林田に売りに行った。猟師は佐治谷の者ではあったが賢い者だったので蓋の外にある雉を使い、俵の中の鳥を雉だと思わせ、すべて売ることに成功した。(岡山むかし話101選① 立石密利、編著)

柘原の大つなぎ

昔、柘原の小瀬(こせ)にある大きな岩に大うなぎが住んでいた。ところが、その姿を見た者は誰もいなかった。ある男がこの大うなぎを釣ろうとして、大きな仕掛けを作った。じつと待っていると食いついてきた

狼と狐

昔々、狼と狐がいた。ある日、二匹は腹が減ったので、人間の家へぼた餅を盗み食いにいった。狐は二つ、三つ食べたら障子の隙間から出て、また入ってくる。狼は一生懸命ぼた餅を食べる。そうこうしていると、ぼた餅の入ったお櫃(ひつ)の蓋が落ちて大きな音を立ててしまった。家の主人が何事かと起きてきた。狐はさっさと逃げたが、狼は腹が膨れて障子の穴にはさまってしまいました。そこに家の主人が来て、狼は叩き殺されてしまった。(岡山むかし話101選① 立石密利、編著)

カメ・サル・ハチの恩返し

昔々、大変横着な若者がいた。ある日、あまりに横着なので両親に

「自分のことは自分でしろ。」と、家を追い出されてしまった。湯原の方へ向かっている途中、カメ・サル・ハチを助けてやった。その後、大きな家の前に三つの条件を成し遂げられたら婿にすると立て札があり、さっそくやってみた。その際に、以前助けたカメ・サル・ハチが手助けしてくれたので見事婿になり、いい暮らしをした。(岡山のむかし話 岡山民話の会、編)



坪井 民夫先生

「ジャン・ウエストロフ」

「関ヶ原」

司馬遼太郎・著
反則だとは思いますが、二冊(分

冊なので本当は七冊)選んでしまいました(しかも大定番で何のひねりもないですね)。一冊目はガチンコの大河小説で、時代背景的なものもあり若干馴染みにくい人もいるかとは思いますが、全編、理想主義とヒューマニズムが賞き、作者のメッセージが熱いです。ちなみに主人公のモデルはベートーベンと言われています(言われなくても読めばわかるが)。二冊目は誰でも読めやすいと思います。一族の重大な局面で、それぞれの武将がそれぞれの価値観で、各人各様の生き様を見せ、戦国マニアにはたまらないものがあります(著者の脚色の分、史実の人物像とはかなり違うとは思いますが)。鳥左近や大谷刑部といったメジャーどころはもちろん、マイナー武将も悪役もカッコよく描かれています。知識が広がると世界が広がります。津山高校なのでL章の「Liberal Arts」(教養)の精神で、理系・文系という枠にとらわれずアカデミックであってください(自分は物理学科ですが、物理屋には文学や芸術に造詣(ぞうけい)の深い人が多いです)。大学入試はゴールではなく、そこから好きなことが好きで勉強できるスタート地点ですよ。(あと、ノーベル賞獲ってください!)

「傷はせつたいに消毒するな」
(生態系としての皮膚の科学)
夏井 陸・著

私たちの常識とは何か。本の科学をすることは何か。奥深い文学作品でも、ロマンチックな恋愛小説でもありません。日常生活の中で、誰でも身近に起こりうる怪我、火傷。学校では教えてくれない、本当に正しい対処法を知ってもらいたい思いで、この本を選んでみました。読みやすい文章で書かれています。そして、大人になって結婚して、家族ができてズーッと使えます。

あなたが体育の時間に、ラグビーをしていて、タックルをされて、膝小僧をすりむいてしまいました。その時、どうしますか。夜遅く、勉強をしていて、ココアが飲みたくなり、お湯を沸かししたら、熱湯が手の甲にかかってしまいました。アツチツチツチ。あれあれ、ひどい火傷をしてしまいました。その時、あなたなら、どうしますか。

すく、消毒・・・と、まさか今の時代に「アカチン」(マキエロクロム)はないでしょうか、マキロンか何かの、消毒薬を患部に塗るに違いありません。しかし、その消毒が、もし、傷の回復を遅らせるばかりか、痛みやけがを悪化させることになるなら、あなたならどうしますか。

この本では、専門家であっても、非常に分かりやすい言葉で、どうしたらよいか説明してくれていま

秋山 貴先生

(音楽)

す。今まで医者でさえ、けがをしたら、やけどをしたら即消毒、と考えていた常識？を、根底から払拭してくれま。そして、消毒をしないで、湿潤療法をしたほうが治りも早いし、痛みも少なく、跡形が残らないのです。それは、人間というより生物には本来、自分で自分を治す力を備えているからです。

さあ、あなたなら、けがをしたとき、どうしますか。

しかも、けがや火傷に対する、治療法の有無だけでなく、「科学」というものの根本的なありかたや考え方についても迫っている本です。古いパラダイムを否定し、取り崩してこそ、新しいパラダイムが生まれ、またそのパラダイムもいつかは壊されていく。これが科学の発展そのものののだということを、医学を目指すものではなくても、心に染み入ってきます。

人は、保守的で、自分を守ること、勢力をかたむけるものです。しかし、常識や通説やみんながやっていることが正しいとは限らないのです。まだわかいあなたなら、きつとその古いパラダイムを打ち破ることができると人間になれると思います。

森 友佳子先生

(同書)

「國が強く/弱く/いゝ」

三浦しをん・著

この本は毎年お正月に行われる、箱根駅伝を舞台にした小説です。箱

根駅伝は往路と復路を合わせて、十人の選手が走ります。この小説でも十人の個性豊かな選手が登場します。ほとんどが駅伝初心者で、それどころか陸上選手でもありません。ずつと箱根駅伝を走りたいと思っていたハイジに巻き込まれる形で、走る練習を始めます。

そのような寄せ集めのメンバーであるため、十人の考えていることももちろんバラバラです。みんなそれぞれに抱えている問題が違います。でも、そんな十人が箱根駅伝を走りきるといふ一つの目標に向かって、それぞれが出来る精一杯の力を合わせて努力していきます。そして、最後には見事に箱根駅伝を走りきります。

「一つの目標に向かって、お互いの個性を認め合いながら協力する」様々な人がいる中で、これはとても難しいことかもしれないけれど、これができればとても大きな感動を得られます。ぜひ津高生の皆さんにも、高校生活やこれからの人生の中で、このような体験をたくさん積み重ねていってほしいなと思っております。

読書をする、自分の世界がどんな広がっていきます。今まで興味がなかったことに興味を持ったり、様々なことを考え、感じるようになります。一日五分でも十分でもいいので、読書をする習慣をつけるようにして下さいね。

読書感想文紹介

美作地区 高校生

読後感想文コンクール

優秀作品

『おくりびと』を讀んで

岡山県立津山高等学校
一年 福垣 仁人

出会ったのが、「納棺師」という仕事だったのだ。失うことで、新たに会えるものがある。そんなことを、ささやかに教えられた。

この物語からは、切っても切れない「死」という存在。先程「失うこと」という言葉をあげたが、まさにその象徴とも言えるだろう。この本を読む前後で最も変化したのは、僕自身の死に対する意識かもしれない。それもあまり実感することなく、自然と塗りかえられていた。今までの「死」に対する思いは、恐怖そのものでしかなかった。「死んだらずっと眠ったままか。」なんて考えてみては、体を身震いさせていた。「死」なんて、ただ何もかも失ってしまうだけのように思っていた。しかし、大悟が出会った遺族たちを見ていると、自分の考えに疑問が湧いてきた。なぜだろう。なぜ死んでしまった人のために流す涙は温かいのだろうか。もっと重々しくして生々しいものではないのか。物語の中で、遺体を取り巻く状況は様々だった。寿命、孤独死、自殺……。それでもその一つ一つにドラマがあった。よく考

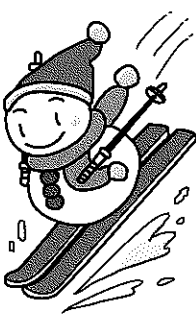
「おくりびと」——なんて悲しくて切ない題名だろうか。父の本棚のガラス越しに見たそのたった五文字が僕の心に焼きついて離れなかった。僕はゆつくりとその本を手にとった。数年前に映画化されて、何かと話題になったからかもしれない。でも自分を一番動かしたのは、数年ぶりに見たこの切ない題名そのものだったのだ。

読み進めていくうちに分かったことがある。この物語は「失うこと」から始まるのだ。主人公の大悟はチェロを弾いて、生計を立てていた。しかし、所属していた楽団の突然の解散により、「世界を駆けるチェリスト」という長年の夢は儚く散ってしまった。仕事を無くし、妻の美香と実家に帰ってきた大悟。そこで

えると、思い当たる節もある。僕が小学一年生の時、ひいおばあちゃんが亡くなった。その時の自分は何が起ったのか分からなかったが、他の人が涙を流すのを見てみると、自分も悲しくなった。今ならその場にいた親戚や家族の気持ちが分かるような気がする。そこで見た涙は単に悲しいだけの涙ではなくて、その奥に深い愛情があった。死を弔い、嘆く以前に、大きくて温かい気持ちが心を動かしていたのだ。

悲しいことに、僕が死んでもこの世界は回り続ける。しかし、それはほんの数時間前の自分の考え方だ。死に対して流される涙には愛情があると知った。知っただけではもったいない。「死は門だ。」物語の中で一番印象に残った言葉である。ただ死を怖がり、萎縮して生きるのではなく、死んだ時にたくさんの愛情を流してもらえるように、自分らしく生きてみようと思う。

ガラス越しに見たたった五文字の言葉が、僕の目には先程よりも丸みを帯びて、優しく写っていた。



佳作作品

『おおかみどじもの
雨と雪』を読んで

岡山県立津山高등학교

二年 芦田 加奈

人間の本質というものを、この本から学んだ気がした。

この物語の主人公である花は、恋をした相手が「おおかみおとこ」であつても、二人目の子供を身籠つてすぐ自分の夫が死んでも、誰にも頼ることができなくても、決して折れなかつた。人目に付かないよう田舎に引越し、それでも人と関わりつつ、人として生きようとする雪と、狼として生きようとする雨の衝突を目にしたがらも、二人を女手一つで育て続けた。彼女は強い。それは、この本を読んでいて何度も思ったことだ。そしてその源を考えたと、それは人間の本質へとつながつた。

人との関わり。幼いころから幾度となく耳にしてきたものこそが、人間としての強さ、本質ではないだろうか。

「人間は社会的動物である」とアリストテレスは言ったが、全くその通りだと思う。誰かに愛されることが自分の存在価値を生み、助け合いが生きる術を作り、傷つけ傷ついた経験が自分の心を打たれ強く、そし

て深いものにしていく。人間は古来よりそうして生きてきたはずだ。それがおそらく最も幸せな生き方であり、強く生きる生き方であり、そして花が選んだ生き方なのだ。そうであるならば、今の社会はそれができているのだろうか。

今の世の中は数字が重視される。身体能力はどれだけ高い。年をいくつ重ねた。偏差値はどのレベルだ。そのようなことばかりが重視される。人間関係は自分のステータスを高めるためにあり、社会的地位が低い人と友になれば周囲から非難される。愛情が感じられなくなつた人々はインターネット上で自らの存在価値を探そうとする。少なくとも私が今まで見てきた現代社会は、そんな形相をしていた。

今を生きる人の多くは、大切なものを忘れていく。私も例外ではない。無いと気付いたとしても、なかなか手に入らないものだ。私たちが住んでいるこの世界も、花たちが住んでいる世界のようになるべきなのだ。だがグローバル化が進行し、学歴社会となつてしまった世の中の価値観を変えることは、そう簡単ではない。それはきっと、私たち自身も分かっている。鉄のように冷たく無機質な世界で、人間としての本質を失わないうために、作中で花が見せたような悪意のない人間関係から生まれる愛が必要だということも。

確かに大きな世界を変えることは難しい。しかし、身近な世界は変えることはできる。例えば、クラス。例えば、家族。例えば、自分自身。誰かに愛されたいのなら、まずは自分が誰かを愛せばいい。誰かに認められたいのなら、まずは自分が誰かを認めればいい。

私も、冷え切つた現代社会で失つた愛を取り戻すために、まず誰かを愛したいと思う。それこそ周りのすべての人々を、そしていつか花のように、深い関係で結ばれた人と笑いあえる日々を、私が考える人間としての本来の幸せと強さを手に入れたい。

佳作作品

『君たちはどう生きるか』
を読んで

岡山県立津山高등학교

二年 高田 夏希

主人公「コペル君」こと本田潤一は中学二年生で既に父親を亡くしている。そんな彼にとつておじさんの存在は大きい。彼はおじさんに何でも話す。学校での大事件、親友との衝突……。彼が経験する純粋でどこかあどけない出来事を一つ一つおじさんは諭してゆく。コペル君が忘れぬようにノートにまで取つて。コペル君の父親は亡くなる三日前、おじさ

んに「あの子が立派になつて欲しい」という希望を託した。親なら子にそうなつて欲しいと願うのは当然だ。そして誰もが「立派」を目指している。私もそうだ。学校に通い、課題をし、テストを受けるのも結局は立派になりたいからだろう。では「立派」な人間とはどんな者か。計算が早い、成績が良い。きっとそれだけではない。彼の父が言った「立派」にはもつと深い意味があるのではないかと私は思つてしまった。

コペル君の感性には驚きの連続だ。彼が高いビルから東京の都会を見下ろして「人間って分子だね。」と言つた部分は特に印象的だ。同時に深く納得もさせられた。思えば私たちはまだ誤解しているのかもしれない。かつて天動説を信じていた昔の人のように、世界は自分を中心に戻っているのだ。おじさんのノートは「自分中心に物事を判断する人の目に真実は見えない。」と語る。例えば、普段私たちは、太陽が昇る・沈むと表現しているが、真の宇宙の仕組みを知るにはその考えを捨てる必要がある。天動説から地動説的な物の見方へ変えることで視野は大きいに広がる。おじさんは、彼のこの発見をいつまでも忘れぬように、地動説への変換を提唱したコペルニクスから名を取つてあだ名をコペルにした。

おじさんのノートにも多くの事を学んだ。ナポレオンの英雄的精神を

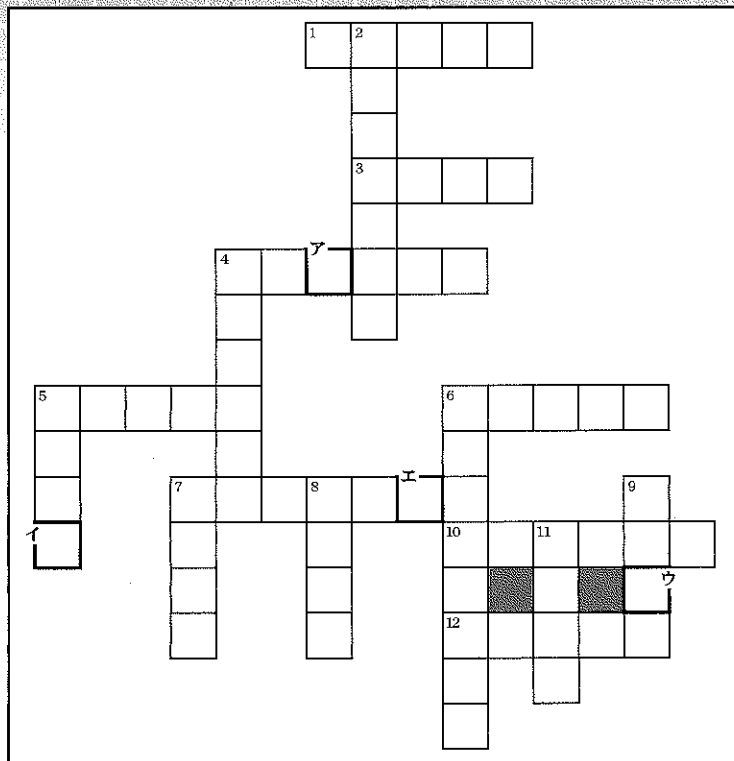
買った生涯から真の偉人とは何かをニュートンの万有引力の法則から人との繋がり。哲学的観点から展開されるこの物語を私は難しく感じた。それでも最後まで読むことが出来たのはいつしか私がコペル君になつていたらだ。頁をめくる度、彼と共に一喜一憂しおじさんに教わりながら成長しているのを実感した。

しかしノートは答えを語っていない。どの頁も「自分で考えるように」という文でくくられている。これはおじさんの「自分で考える力を養え」というメッセージだと思つた。そこで私は「立派な人間とは。」の答えを用意することが出来た。つまり、自分で考えることの出来る者を立派というのだ。与えられた物を受け取るだけなら真の偉人にはなれない。父の真意は分からないが、おじさんもこんな思いを察して彼に考えさせようとしたのだろう。

筆者は作中で二つの問題提起をした。「自分が日々生み出しているものは何か。」そして、「君たちはどう生きるか。」勿論答えはどの頁にも載っていない。さて、私たちはどう生きようか。受け取るだけではなく、与える側にもなつて、「立派」を目指して行こう。



図書部員が難行苦行し、作成したクロスワード



ア □ □ イ □ □ ウ □ □ エ □ □

ヨコのカギ

1. 図書室で人気のある競技カルタのマンガのタイトルは？
3. 11月11日は〇〇〇〇&プリッツの日
4. 「ジャン・クリストフ」「関ヶ原」をおすすめしてくださった先生の名前は？
5. 図書室の司書の先生の名前は？
6. 月(ライト)という名前の男子高校生が主人公の物語のタイトルは？
7. 貸し出し第1位。ニコニコ動画で人気のボカロ曲を元にした小説のタイトルは？
10. 物語シリーズの作者は？
12. 成美文芸を発行しているのは何部？

タテのカギ

2. 映画化もされたイギリスの魔法使いのメガネ少年が親の敵を倒す物語のタイトルは？
4. 津山高校の場所
岡山県津山市〇〇〇〇〇〇
5. ラジコンダの俗名。アントニオ・マリア・ディ・ノルド・ジエラルディーニの娘を描いたとされる作名は？
6. ハイスクール・ミュージカルは何文庫から出ているか？
7. ハッケン君という犬のキャラクターが存在する文庫は？
8. 今連載されている人気マンガ
〇〇〇〇兄弟
9. ライブラリーを発行しているのは何部？
11. 「傷はぜつたいに消毒するな」をおすすめしてくださった秋山先生が担当している教科は？



答えは図書室の森先生まで。
全問正解の人先着7名に
景品を差し上げます。

部長でも副部長でもない
ただの平部員の私が編集後
記を書かせていただきました。
今回のライブラリーは
どうでしたか？今年も昨年
にも増して大所帯となった
図書部ですが、相変わらず
締め切り直前にバタバタと
仕事をして、予定から一
週間遅れて完成しました
(笑) 民話の紹介を見て、
自分たちの地元を知る良い
きっかけになれば・・・と部
員一同思っております。多
分、春のライブラリーでは
新任の先生でしたが、今回
はあえて津高歴の長い先生
と、本の妖精・森先生に本
の紹介をしていただきまし
た。こんな端の方まで目を
通して下さってありがとう
ございました。



第59回青少年
読書感想文
岡山県コンクール
佳作・・・2年 栗井 鈴菜